

地物等の三次元点群データをAR表示することで、視界不良時においても地物や地形の位置・形状がわかるようサポート
【新たな仕事の仕方】

No	2	分野	道路	プロセス	維持管理
目的	事象の認識			撮影・可視化対象事項	位置、形状
対象物(部材等)	その他			活用効果	安全

現在の仕事の仕方

- オペレータによる目視確認
- ・従来の除雪作業時は、オペレータが目視によって前方を確認していた
- ・風雪時には前方の視界が悪く、横断歩道や標識を見落とすリスクがある
- ・また夜間作業においても視認性が悪くなるリスクがある



新たな仕事の仕方

- ARIによる地形・地物のガイダンス
- ・高精度測位タブレットにより除雪車の位置をGPSで測位
- ・タブレットで地物等の三次元点群データをAR表示することで、視界不良時においても、地物や地形の位置、形状などを正確に把握できる
- ・構造物等への接触や危険箇所への侵入を抑制し、オペレータが向かうべき方向へ進めるため、安全性の向上が図れる



【画像・映像情報の活用目的】
地物・標識等のAR表示

撮影・可視化対象事項	【位置】事象の認識、【形状】事象の認識
撮影・可視化条件	動作温度:-10℃～50℃以内
対象の属性情報	—

出典: <https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KT-200040%20>